



趣味は農業!

地元でエネルギーの地産地消を親子で実践 一途な取組が芽吹きはじめた

産業廃棄物の再資源化を事業の柱に、できることから確実に取り組み、地域環境の保全と循環型社会形成への一員として社会的使命を果たす、とのメッセージを掲げられた、有限会社 尾張商事（稲沢市祖父江町山崎柳69番地 電話0587-97-0691）を訪問し、代表取締役 山崎真裕氏・山崎永嗣氏にお話を伺いました。



■農業に力を注いでいると伺いましたが。

ええ、自然の恵みを感じることが出来ますからね。この季節はブ

(尾張西支部)
有限会社 尾張商事
代表取締役

山崎 真裕さん(左)
山崎 永嗣さん(右)



ルーベリーの大きな実がたわわに実り、とてもジューシーですよ！5か所で栽培し採取時期をずらして育てていますので、6～9月まで採れます。

■ブルーベリーの実が大きいのですか。

そうなのです、原木を厳選して、なおかつ肥料は自社製を使い、手塩をかけて育てています。

■まるでお子さんを育てていらっしゃるような雰囲気ですね(笑)

あはは、子どもに叱られるかもしれないですが、育った農作物は何にも代えがたくかわいいものです。

■他にはどのような農作物を手掛けているのですか。

みかんや落花生、稲作り、野菜の苗作り、植物の挿し木・・・興味のわいたもの全てに挑戦しています。

■お世話が大変ですね

畑や田んぼは会社の近隣に点在し、水やり、追肥、雑草抜きなど家族で分担し行っています。今日のような酷暑の日は堪えますね(笑)

■肥料は自社製を使用されているとのことですが。



936㎡の大きな実験ハウス



植物の挿し木、野菜の栽培など多品種のハウス



ブルーベリーの苗木

そうです。自社の理念にある“再資源化”が常に念頭にあります。実は趣味の農地は、自社肥料の実験農場といえます。田の稲も、自社の肥料で育てた稲と、何も使わず育てた稲とでは、葉の色の緑の濃さに違いがでています。みかんも自社肥料で育てたものを、ご近所さんが試食され、とても甘いとの感想を聞いております。落花生は塩ゆでが美味で評判となりましたので、現在生産性を上げる努力をしているところです。特に落花生は地下に実を持ちますので、土中の肥料の恩恵を受けます。塩ゆでは、実が柔らかく甘みがあります。

■本業から肥料作り、農作物の生成につながっていますね。



肥料実験中の稲田



みかんの木

生業から得られるものを社会へ還元していく、エネルギーの地産地消モデルを、身をもって実践していくことで、弊社業務が成り立っていることに、感謝の気持ちを表したいと思っています。現在本社の近くにハウス栽培の建物を作り、多品種の農作物を栽培し自社肥料を与え、成長速度、野菜の色の違い、栄養要素の違い等様々な観点から実験を行い、その結果を数値化する試みを行っています。産業廃棄物を地球の土に戻す、食物連鎖の一端を担う、言葉にすると大げさかもしれませんが、そのためのツールが趣味の農業です。気楽な趣味ですが、気合は入っていますよ！（笑）



自家製たい肥

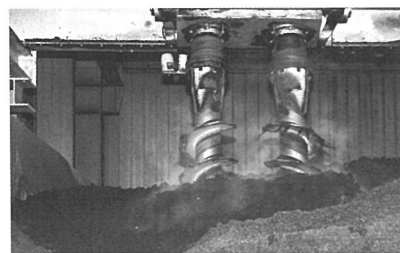


工場の中の肥料作りの機器

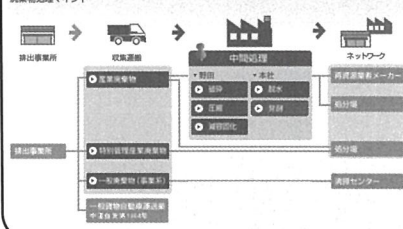
アピールポイント

自社肥料は、汚泥、動植物性残さの発酵処理を行い、1日の処理能力は5 L. 1 m³です。

排出事業者から直接受けているため、廃棄物の内容に信頼が置けます。また発酵槽の中では、2軸のスクリーが前後スイングしながら横行、スクリー先端から温送風を出しながら攪拌。その他工夫を凝らし、キメ細かな肥料を製造しています。



廃棄物処理マインド



満面の笑みでお話される山崎真裕社長、実直なお人柄から溢れる作物へのきめ細かな取組と、永嗣社長の廃棄物処理の技術者としての手腕が相まって、自社における再資源化が実践されています。農園の作物を食べた人は「あま〜い！おいし〜い！」と、幸せいっぱい笑顔で応え、その魔法の言葉は、新しい肥料開発の原動力となっているようです。親子二代での新たな取組が、地元には大きな影響を与えるのではないのでしょうか。もはや趣味の領域を超えています。さりげなく趣味という、山崎社長の度量の大きさを感じました。貴重なお時間を取材にご協力いただきありがとうございました。